

中山間地域における地域資源の利活用について ー長崎県式見地区の地域活性化グループの取り組みからー*

藤 崎 亮 一**

Research on using regional resources in community

Ryoichi FUJISAKI**

キーワード：地域資源、地域づくり、在来知

はじめに

長崎県長崎市式見地区では、地元住民らが会員として活動する「四季美」という活性化グループが中心になって「ひめかてし」の地域資源化に取り組んでいる。筆者は2010年からそれまで未利用な地域資源であった「ひめかてし」を活用可能な地域資源とするために「四季美」の活動と地域資源化する過程に接する機会を得てきた。

本稿は、「四季美」の活動と地域資源化の過程において一部であるが活動の記録と考察できた点をまとめた研究ノートである。

1. 式見と地域資源

1.1 活動地域の概要

長崎県西彼杵半島に位置する式見地区は、標高475.2mの岩屋山や標高336mの矢筈岳の山地に囲まれ、斜面地を西に下れば角力灘が広がる海と山の自然に恵まれた地域である。

1962年（昭和37年）に長崎市に編入した当時、約8,000人の人口を有していたが2011年（平成23年）には、3,479人にまで減少しており、高齢者比率が34%を超えている。

式見地区には、相川町、式見町、園田町、牧野町、見崎町、向町、四杖町の7町に16の部落があり、各部落に住む農業や漁業従事者によって個性的な郷土芸能を催す時代があった。現在は少子高齢化のため廃止されたものも多く、祝賀祭等を開催し郷土芸能を披露する事が年々難しくなっている。

四杖町の中通区には、市立式見中学校があり、坂沿いに住宅地と農地があるが耕作放棄地が広がり山林化が進んでいる。『式見郷土史』によれば、式見は「山がちで水田は少ないが、対馬海流の影響を受けて温暖多雨、南九州型の気候で五島

灘に面した広い緩斜面の台地では古くからさつまいもや麦の栽培が盛んに行われた」¹という。また、四杖町の北東には1970年代から1980年代頃まで式見牧場があった。² その跡地は、農業振興を図るために「長崎市いこいの里あぐりの丘」という農業体験型公園施設が1998年（平成10年）に開園し、長崎市中心市街地から10数kmの距離にあるため、保養やレジャー目的で訪れる市民が多くいる。

1.2 活動団体「四季美」の概要と「ひめかてし」について

四杖町を中心にして式見地区の地域活性化に取り組んでいる活動団体「四季美（しきみ）」は、2008年（平成20年）3月に5名の会員によって設立された。³ 設立前年から山林化が進む耕作放棄地の雑木の伐採と手入れを始めていたが、その作業過程で「姫椿（ひめつばき）」の木々を発見した。姫椿は、山茶花（さざんか）の別名で花は白く、式見では10月上旬から翌年1月頃まで咲いており「ひめかてし」と呼ぶ。会員は、この「ひめかてし」の実から搾油して地域の活性化に取り組む活動を始めた。設立の翌年10月には、自動車用ジャッキにヒントを得て圧搾機を自作し「長崎市いこいの里あぐりの丘」で来園者向けに「姫椿油搾り体験イベント」を開催して好評を得ている。そして同月に「長崎市提案型協働事業公開プレゼンテーション審査会」にて今後の活動内容と地域の活性化案を発表、提案した。

四季美の活動目標

- 地域の伝統・文化の継承・まちづくり事業
- 伐採、除草等による耕作放棄地等の復元
- 姫椿の実採取、油精製
- 椿油の製品化
- 式見地区の活性化



* Received February 2, 2017

** 長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 経済政策学科、Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

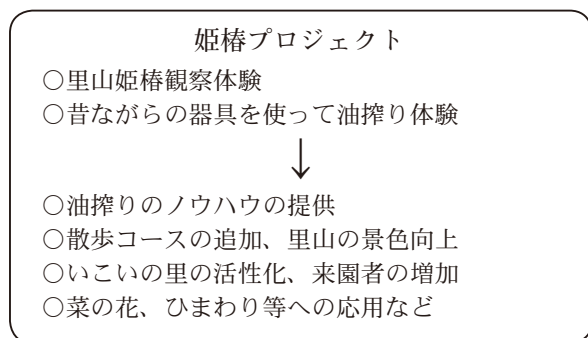


図1：提案型協働事業公開プレゼンテーション審査会での提案スライドから筆者が編集

『式見郷土史』には記載がないが、四季美の代表者である村上氏によると式見では戦前から終戦直後まで「ひめかてし」の実から油を搾り、日常生活にその油を用いていたと言う。戦後、ライフスタイルの変化によって「ひめかてし」の実から搾油することはなくなり、近年に至っては耕作放棄地の広がりや山林化の進行によって「ひめかてし」の存在も当時の里山の景観も忘れ去られていた。

図1からは「ひめかてし」を再び地域資源として用いることによって式見や農業体験型公園施設の活性化のみならず、里山の景観保全や文化継承をはじめ、「ひめかてし」の油の製品化などを目指したコミュニティビジネスとしてのプロジェクトの試みが見てとれる。

2009年、市民活動団体として市に登録した四季美は、その後の団体の活動を「ひめかてし」の活用を中心に据えて展開している。

2. 在来知を用いた地域資源の活用

2.1 「ひめかてし」活用の具現化

四季美は「ひめかてし」を地域資源として活用するために「ひめかてし」の実からどのような工程を経て搾油すればいいのか、搾油できるのであればその搾油工程を当時の搾油機⁴を用いて再現するためにどのような搾油機を製作すればいいのか、高齢である会員の記憶と耕作放棄地の整備や農作業を行うことで身についた技術と知識に頼った。

試行錯誤を繰り返した結果、昔ながらの方法での搾油工程は以下の8工程である。

表1：「昔ながらの姫椿油しぼり工程・四季美」から筆者が編集

①採取した「ひめかてし」の実の外皮をむく。	
②1週間ほど実を天日干しして水分をぬく。	
③杵つきで実を細かくし黒皮をはずして白い実にする。	
④黒皮と白い実を分離する。	
⑤白い実を袋につめる。	
⑥袋ごと紐や縄で縛る。	
⑦40分以上蒸す。	
⑧蒸した実を搾り機にかけて油をとる。	

また搾油機は、昔ながらの搾油機を再現するために非常に固く丈夫な樫（カシ）と木材としても使用される松（マツ）を切り出し製作された。（写真1-6）

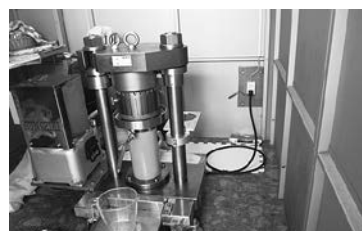


黒皮と分離した白い実をつめる袋や縛る縄は、式見で自生しているヤシ科植物の棕櫚（シュロ）を手作業で加工して用いている。

2.2 体験イベントの開催から商品化へ

昔ながらの木製搾油機と8工程によって搾油できることを確認できた四季美は、2010年10月と11月に木製搾油機を用いて「長崎市いこいの里あぐりの丘」で主に来園者を対象に無料の「姫椿油搾り体験イベント」を開催することができた。前年にもイベントを開催していたが、木製搾油機を用いたのは、この年からである。その後、2014年まで毎年2回のペースで同様のイベントを開催し、毎回、50名ほどの参加者たちがこの体験イベントを通して「ひめかてし」や式見の里山の自然、歴史、生活文化などについて知るきっかけを得ることができた。⁵（写真7-8）

2014年にイベントを終了した四季美は、活動目標の1つでもある「ひめかてし」の油の製品化に挑戦している。電気圧縮した空気圧によって実から搾油する直圧式圧搾機を購入し、化粧品会社の協力を得て少量ながら整髪料として製品化する事にも成功した。販売経路は、インターネットを用いた通信販売のみであるために、現在は、販売経路の拡大と生産量の増量を視野に入れてビジネスとして採算が合うか模索と研究を続けている。（写真9-10）





10

3. 在来知の継承

3.1 体験イベントを成り立たせている伝統的知識

四季美は、それまで未利用であった「ひめかてし」を地域資源として見出し、昔ながらの「姫椿油搾り体験イベント開催」を続け、近年では少量ではあるが「油の商品化」という目標を達成することができた。体験イベント開催のみに注目すれば、「姫椿油搾り体験イベント」の他に式見の農作地で収穫した小麦を材料にして、地元の小学生・小中学校教員・婦人会を対象にした「収穫した小麦でうどんを作ろう講座」や「布草履作り講習会」、そして大学生を対象にした「茶摘み体験講座」など、式見の里山の自然環境から得られ、継承されてきた伝統的な生活文化を体験学習という形で地域住民や次世代の若者へ伝えていっている。そこで継承される知識は、いわば、その地域固有の生活文化を成り立たせてきた伝統的知識である。またそれら体験イベント自体を成り立たせているのは、四季美の会員の取り組む意欲もさることながら「姫椿油搾り体験イベント」の木製搾油機や搾油工程の具現化で見られたように高齢の会員の記憶や暮らしの中で身に着けてきた技術、知識の活用に負うところが大きい。これら在来知を今後どのようにして活用、継承していくのかは、地域の未利用な地域資源の活用方法と付加価値を考えていく上で非常に重要である。

おわりに

式見地域での活動団体「四季美」の取り組みは、未利用な地域資源の活用方法とその付加価値をどのように図っていくかという試みである。団体設立当初に掲げた活動目標とプロジェクトを達成するために現在も活動は継続している。地域では高齢化が進んでいるが、「ひめかてし」を地域資源化していく過程をみると地域資源活用の担い手が高齢の地域の住民であり、その地域の生活を成り立たせてきた伝統的な技術や知識である在

来知の存在に注目できる。「ひめかてし」の商品化は、まだ始まったばかりで少量ではあるが、コミュニティビジネスとして創意工夫の余地は十分あり、ここにも在来知を活用しながら付加価値を進めていく可能性が大きくなるだろう。式見地域の経済的な活性化へとつなげるためには、まだ課題は多いが、式見における四季美の継続的な取り組みは、未利用な地域資源の活用方法と今後の活動の方向に示唆を与えている。

最後に現地や活動調査にご協力して下さった四季美の代表である村上氏をはじめ、会員の方々、式見地域の関係者にお礼を申し上げます。

参考文献

- 小倉幸義 監修『式見郷土史』式見郷土史研究会 昭和61年
布袋厚 『ビオトープ・里山復元の20年』長崎文献社 2016
式見・長崎市編入50周年記念事業実行委員会記念誌部会『式見・長崎市編入50周年誌 長崎市編入から共に歩んだ50年の軌跡』式見・長崎市編入50周年記念事業実行委員会 平成24年
式見村・長崎市編入35周年事業実行委員会記念誌部会『式見 長崎市編入35年のあゆみ』式見村・長崎市編入35周年事業実行委員会 平成9年

¹ 小倉幸義 監修『式見郷土史』式見郷土史研究会 昭和61年 p94

² 布袋厚 『ビオトープ・里山復元の20年』長崎文献社 2016「第7章式見の里山」p106

³ 式見・長崎市編入50周年記念事業実行委員会記念誌部会『式見・長崎市編入50周年誌 長崎市編入から共に歩んだ50年の軌跡』式見・長崎市編入50周年記念事業実行委員会 平成24年 p20-p21

⁴ 2009年の姫椿油搾り体験イベントでは、車のジャッキ等にヒントを得た自作の搾油機で開催しており、昔ながらの搾油工程は、この時点でほぼ確認できていた。木製の搾油機を用いるのは2010年からである。

⁵ 2010年から年に1度、地域実習科目の受講生が地域づくりの現場を学ぶ機会として本学の教員である佐藤・藤崎と共にイベントに参加した。